

Relief

リリーフ

2014
October

vol.17

特集 身につけよう救命処置



公益財団法人

JR西日本あんしん社会財団

JR-West Relief Foundation

身につけよう救命処置

当財団は、JR西日本が2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故の深い反省から設立され、「安全で安心できる社会の実現」に向け様々な事業を展開しています。今回はその中から、救命処置の普及啓発事業として取り組んでいる「救急フェア」のこれまでの経緯についてご紹介します。

平成17年	4月25日	福知山線列車事故発生
平成21年	4月1日	一般財団法人JR西日本あんしん社会財団設立
平成22年	1月6日	内閣府の公益認定を受け、 公益財団法人JR西日本あんしん社会財団 となる
	1月20日	尼崎市消防協会主催「災害対策・救命セミナー」に寄付協力 事故、災害時における市民による迅速な救助や応急手当の重要性を普及啓発し、市民の安全意識の向上を図ることを目的に開催
	10月30日	初めての「救急フェア～気軽に体験、緊急対応～」を尼崎駅で開催 尼崎市消防局のご協力のもと、事故、災害時の市民の方々による初期対応、初期救護（ファーストエイド）の重要性を啓発するため当財団とJR西日本で共催
平成23年	5月～11月	救急フェアを7駅で開催 当財団とJR西日本の共催で、駅を利用される方々を中心に緊急時の市民による一次救命処置の重要性を普及啓発する目的で開催 「救急フェア～声なき『助けて』にこたえたい～」では、AEDや心肺蘇生法の体験、消防に関する啓発等を実施
平成24年	5月～11月	救急フェアを12駅で開催 近畿2府4県に拡大して開催 大阪駅「時の広場」にて救急フェスタ in OSAKAを開催 (NPO法人大阪ライフサポート協会によるブッシュ講習会を併せて開催)
平成25年 平成26年	5月～ 1月	救急フェアを12駅で開催 救急フェスタ in 京都「いのちのリレー大会」開催 (小学生・中学生・高校生を対象にした心肺蘇生法の競技会を開催)
平成26年	5月～11月	救急フェアを12駅で開催中

トピックス ～エキデモ AED 開始～
救急フェアよりももっと短時間で簡単にAEDを知ってもらうため、平成24年から毎月9日を「救9の日」とし、「エキデモ（駅でも）AED」を開催。

トピックス ～新たな手法による初期救護の更なる普及啓発～
AED訓練器及び訓練人形を団体等に提供する事業を実施することで、より一層の初期救護の重要性の普及啓発、救命率の向上の深度化を図る。なお、必要な場合は、提供先に対して、これらを使った訓練の実施も支援する。

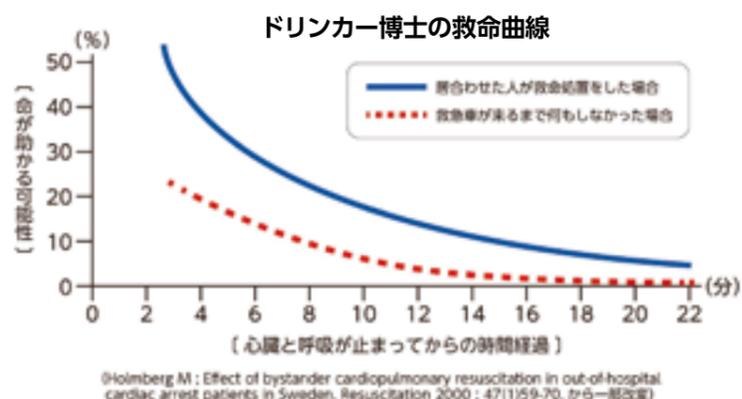
平成22年10月30日～平成26年6月28日
救急フェア参加者約12,200名・AED体験者約2,700名

～救急フェアで目指すもの～
一般の方々がAEDを「躊躇無く、迷わず」に使用できるように体験していただく場（救急フェア、エキデモAED）を提供します。また、いざという時に救命処置に協力できる方を増やし、安全で安心できる社会づくりの一端を担っていきます。



病院外で目撃された心肺機能停止の件数23,797件に対して、市民がAEDを使用した件数は881件と、わずか3.7%に過ぎません。

心臓が止まってから3分以内にAEDの使用（除細動）ができれば、救命率が各段に向上し、加えて生存退院率は70%といわれています。119番通報をして救急車が現場に到着するまでの時間が全国平均で約8分であることを考えれば、誰もが適切にAEDを使用できる環境を整えることの重要性がお解かりいただけるのではないのでしょうか。



AEDを医療関係者以外の人でも扱えるようになって10年になり、駅や商業施設などで目にする機会も増えました。しかし、これまでの普及啓発活動を通じ、AEDの設置台数は増えても使い方が分からない人が多く、救命処置の方法（心肺蘇生法やAEDの使い方等）もまだまだ浸透していないという現状を改めて痛感しています。

救急フェアでAEDを体験していただいた方からは、「AEDの存在は知っていたがこんなによく見たのは初めて」「名前は聞いたことはあるが使い方は知らない」「どのようなときにAEDを使えばよいのかわからない」といった声が、毎回たくさん寄せられます。

そういった声に応えるために、AEDの操作は「怖くない」「誰にでもできる」ということを広く浸透させ、目の前で誰かが倒れたときには勇気を持って行動してひとりでも多くの「いのち」を救うことができるように、救急フェアをはじめとした普及啓発活動を継続していきます。

9月4日、東日本大震災を契機として、改めて災害に対する安全の重要性が社会的に認識されたことに加えて、南海トラフ巨大地震に関する発表や昨今の異常気象を受け、ますます関心が高まっている「防災」をテーマに事故や災害を見据えた地域社会における仕組みづくり等に焦点を当てた安全の啓発活動として、2名の講師による「安全セミナー『災害と危機管理』」を開催しました。

Profile



矢守 克也氏

(やもり かつや)

京都大学防災研究所
巨大災害研究センター教授

同情報学研究科教授、阿武山地震観測所教授、人と防災未来センター上級研究員などを兼務。博士（人間科学）。

現在、自然災害学会、災害情報学会、災害復興学会などの理事などをつとめる。専門は、災害心理学。

主著に、「防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション」、「防災人間科学」、「増補版：（生活防災）のすすめ」、「ワードマップ：防災と減災の人科間学」、「巨大災害のリスク・コミュニケーション」、「夢みる防災教育」など。

開発した防災教育手法に、「クロスロード」、「個別避難訓練タイムトライアル」など。

災害リスク・コミュニケーションの新しいかたち

これまで多く使われてきた災害リスク・コミュニケーションの方法に少しアレンジを加え、新しい方法として「3つ」紹介したいと思います。

防災ゲーム「クロスロード」

クロスロードは「分かれ道」という意味で、大事な決断・選択を意味する英語で、阪神・淡路大震災のときに実際に起きた出来事をもとにクイズ形式の教材をつくりました。

例えば子供たちに次のような問いかけをして、イエスかノーかで答えてもらいます。「津波が迫る中をおじいちゃんが逃げています。このおじいちゃんをあなたは助けに行きますか」、また、「そのおじいちゃんが知り合いだったら?」「そのおじいちゃんが自分のおじいちゃんだったら?」、そして最後に「あなたのおじいちゃんは君たちに助けに来てほしいと思うだろうか」。そうすると、子供たちもここではっとしてくれます。おじいちゃんのほうはもしかしたら「もうおまへたちは先に逃げろ」と思っているかもしれない、といった想像力を働かせてもらうようにしています。

これらの問いに正解は無く、できる限り後悔せずに済むように判断できる準備を含めてリスク・コミュニケーションをしたり防災教育をしたりすることが大事です。

個別避難訓練タイムトライアル

高知県四万十町津津という地域では、地震が起きてから約20分で人の住んでいるエリアに避難が困難になるような30センチぐらいの津波が到達し、最大20メートル以上の津波がやってくる危険性のある、高齢化率が昨年50%を超えた地域です。

この地域では、津波による被害を防ぐために、これまででもデイサービスや保育所の高台移転など整備を進め、これを生かす意味においても、一人の住民の方に焦点を当て、「これはあなたの訓練ですよ」という状況をつくって避難訓練をしています。その訓練をビデオで撮影し、避難の仕方全てを浮き彫りにした動画カルテをつくり、ご家族の方ともう一度見ていただく「個別避難訓練タイムトライアル」という活動を行っています。

住民一人一人が防災の主役となる避難訓練をする狙いは、諦めず、油断せず、災害との闘いに勝つことです。また、家族や子供たちから「もっとこんなところに気をつけたほうがいいよ」とメッセージをもらうことで、次はもっと頑張ろうという気持ちになります。リスク・コミュニケーションに関しては、誰が伝えるのかという視点が大切なのです。

災害メモリアルKOBE

阪神・淡路大震災を経験していない子供たちに、震災発生当時にその子供たちと同じ位の年齢だった被災者に災害を語っていただく取り組みです。

震災から14年目には、震災当時、小学1年生だった井上奈緒さんに神戸市灘区の小学5年生を対象に語っていただきました。井上さんのお父さんは震災当時、神戸市のレスキュー隊の隊長でした。小学1年生だった井上さんは、高校卒業後、お父さんと同じ神戸市の消防士になりました。災害が人や家族にどんな影響を及ぼしたのか、このような語りも阪神・淡路大震災の伝え方の1つだと思います。

阪神・淡路大震災から20年たつてこのように生まれてくるもの、熟成されてくるものもあるということにも目を向けながら、リスク・コミュニケーションについて考えていきたいと思っています。

Profile



河田 恵昭氏

(かわた よしあき)

関西大学
社会安全研究センター長・教授

1974年京都大学大学院工学研究科博士課程修了。京都大学防災研究所教授、巨大災害研究センター長。阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長（兼務）、防災研究所長、巨大災害研究センター長、関西大学社会安全学部長、2012年より現職。京都大学名誉教授。21世紀COE拠点形成プログラム「災害学理の解明と防災学の構築」拠点リーダー。大都市大震災軽減化プログラム（文部科学省）研究代表者。政府関係では現在、中央防災会議防災対策実行会議委員。著書：『これからの防災・減災がわかる本』、『スーパー都市災害から生き残る』、『12歳からの被災者学—阪神・淡路大震災に学ぶ78の知恵』（共著）、『津波災害』、『にげましよう』、『新時代の企業防災』など。

災害多発時代の安全・安心を実現する

近畿地方に地震が起こったら

我が国の最近の災害環境は、地震から始まって、洪水、津波、高潮、土砂災害、噴火、海岸侵食と、枚挙のいとまがないような形でどんどん悪くなっています。

南海トラフ巨大地震で起きる津波は、50キロもの長さがあり、大阪では高さが3.8メートルにも達します。大阪の防潮堤は3メートルまでの津波には耐えられますが、それ以上になると乗り越えてくるので、大阪の地下街はキタもミナミも一波で水没してしまいます。しかし今、大阪市には津波避難ビルが68万人分しかありません。あと68万人分不足しています。そのようなことも踏まえて対策をつくっていかねばいけません。

知識が命を助けてくれる

阪神・淡路大震災で2階建ての家が潰れた例を調べてみると、90%は最初に1階から潰れています。地震の際にはよく揺れても2階のほうが安全です。家具を固定することも効果的です。震度5弱で家具が倒れてきます。静岡県で地震が起きたときに負傷率が低かったのは、家具の固定率が全国平均の倍以上だったからです。「総桐のたんすだから穴をあけるな」と言う方がいるかもしれませんが、「死ぬ」ということと被害を受けるということがつながっていないところに大きな問題があるのです。

土砂災害については早めの避難が大事です。大雨が止んでも山の斜面を雨水が浸透するので半日は危険です。逃げる暇がなかったら2階に上がる。無造作に1階で寝ていると被害を大きくすることになります。また、地名に「龍」「亀」がついている地域は、大雨が降ると「亀」のように土砂が流れる、そういう土地だよ、ということを先祖が教えてくれているのです。

大雨警報が出ているときは車を運転しないほうがいい。警報は1時間に50ミリの雨で出されます。なぜなら下水の処理能力が1時間に50ミリなのです。それ以上降ったら雨水が逆流して道路が冠水し、ガード下などの低い場所に水がたまります。いつもの道を走っていたら、突然水たまりに車で突っ込んで水死するという事例が後を絶ちません。

また、川から500メートル以内は、堤防が決壊したら家が流される危険性があります。500メートルといえば随分遠いので、自分は関係ないと思いがちです。しかし都市化により人が川のそばにたくさん住むようになると洪水ピークが早くきて、流量が増え、土の中に浸透しなくなります。道路が舗装されて家が建つと浸透しないので、川に水が出てきます。すなわち、川を危険にしているのは、自然ではなくて我々なのです。

そういうことを知っていただくことで被害を減らすことができます。

知識は自分から取りに行く

災害から身を守るためには勇気が要ります。例えば土砂降りの雨の中、避難をするには勇気が必要です。しかしこの勇気がないと被害に遭ってしまいます。

必要な知識は自分から取りに行ってください。待っていてはだめです。どうやって命を守るか。今は情報がたくさんあります。知らなかったら知識がないのと同じになってしまうということを知っておいていただきたいと思います。

当財団では、今回の「災害と危機管理」のテーマのほか、平成24年度及び平成25年度に極めて高い関心を集め、企業や行政における安全確保や事故防止を主な目的として開催してきた、人的要因に焦点を当てた「ヒューマンファクター」をテーマとする「安全セミナー」を今年度中に開催するよう、現在計画中です。

詳細が決まりましたら、改めてご案内いたしますのでご期待ください。

公募助成団体の活動紹介

夏から秋にかけて、毎年多くのイベントが開催されています。今回も様々な活動を訪問してまいりましたので、その様子をダイジェストでお届けします。

はすの会

『特別講演会「悲しみの向こうがわ」』

7月13日(日)に、上智大学グリーンケア研究所の高木特任所長をお招きした特別講演会を開催。講演中には、涙を拭いている聴講者の姿も多く見られました。講演会後には胸の内を語り合う「分かち合いの会」も開催されました。



奈良精神科作業療法勉強会

『被災地の心身障害児を対象とした宿泊体験』

福島県の心身障害児の心のケアとして、7月26日(土)から奈良で一泊二日の宿泊体験を実施。スタッフの細やかなケアのもと、奈良公園周辺の散策、アルバム作成、スイカ割、お好み焼き作り等、子供たちの笑顔が見られました。



関西学院大学災害復興制度研究所

『県外避難者交流会』

西宮市周辺で震災被災地から避難生活を送っている家族を対象に、7月29日(火)に日帰りキャンプを実施。子どもたちが学生ボランティアと遊ぶ間、親同士は情報交換等で交流を深め、親子の心のケアとなる様子が見られました。



京丹波町スポーツ少年団

『「双葉町応援隊-KIZUNA-」被災地と心を一つに』

小中学生を中心としたスポーツ少年団が、自分達が栽培したジャガイモを、福島県いわき市の仮設住宅に直接届ける活動。8月11日(月)の訪問では、昨年交流した方々との再会を喜び合うなど、年々深まる絆が感じられました。



三茶屋自主防災会

『防災イベント』

地元消防の協力のもと、7月20日(日)に防災訓練を実施。緊急避難サイレンで避難してきた住民を確認した後、災害の講話等のビデオ学習、応急手当講習、非常食の試食、医療福祉生協による健康チェック等が行われました。



レクイエム・プロジェクト実行委員会

『レクイエム・プロジェクト北いわて 2014』

被災者自らが追悼の思いや未来への願い等、様々な思いを共にする合唱コンサートを7月27日(日)に岩手県野田村で開催。それぞれの思いを乗せた素晴らしい合唱となり、出演者と観客双方の胸に響くコンサートとなりました。



東日本大震災復興支援 京都生協職員ボランティア

『海の虹プロジェクト』

8月8日(金)より5日間、宮城県南三陸町の中学生を京都に招くプロジェクトを実施。台風接近のため予定を大幅に変更したものの、地域の方々との食事作りや民泊など、子どもたちの心のケアに繋がる交流がみられました。



特定非営利活動法人 尼崎障害者センター

『東北からのお客様を囲んで』

8月18日(月)に東北被災地の障害者作業所の方を招待して、東日本大震災で被災した障害者の方々の様子やその後の状況などをお話いただく会を実施。参加者から多くの質問があり、活発に意見が交換されていました。



特定非営利活動法人 プラス・アーツ

『レッドベア火育サバイバルキャンプ 2014』

8月23日(土)から一泊二日で、災害時に生き抜く力を身につけることを目的としたキャンプを実施。リピーターも含め17組の親子が参加し、ロープワークやダンボールでの椅子作り等、楽しく真剣に取り組んでいました。



丹波市防災会

『防災フェスタ&防災講演会』

講演会を盛り込んだ防災イベントを9月6日(土)に開催。初期消火訓練、煙体験、心肺蘇生法講習などに加え、防災資材の展示や炊き出しも行われました。有識者による講演会では、今夏の丹波地区水害の話もありました。



東日本大震災・暮らしサポート隊

『第35回みちのくだんわ』

今回で35回目となる、東日本大震災県外避難者の集いを9月7日(日)に実施。国際口笛大会の優勝者が所属する口笛サークルを招いた口笛コンサートが開催され、参加者は素晴らしい音色に聞き入っていました。



特定非営利活動法人 大阪自然史センター

『遊んで学ぼう! あづんでみっぺしのだっ子隊!』

野田村や隣接する久慈市の子どもたちを対象としたワークショップを8月31日(日)に開催。紙飛行機や飛び出すカード、虫入り琥珀のレプリカの作成などを通して、地域に根ざした歴史や自然を楽しく学んでいました。



六荘地区地域づくり協議会

『六荘地区防災フェア～地域の絆が命をまもる～』

地域の防災力、防災意識の向上を目指した総合防災訓練が9月7日(日)に実施されました。「自助・共助・公助」の役割分担と連携のもとに様々な訓練や体験が行われ、約300名の住民が熱心に取り組んでいました。



一般社団法人 キャッシュ・フォー・ワーク・ジャパン

『南海トラフ巨大地震対応と雇用・産業復興を考えるシンポジウム in 南紀』

東日本大震災の際に雇用・産業復興に尽力された人々が、地元の方々と南海トラフ地震に向けて語り合うシンポジウムを9月17日(水)に開催。災害時に雇用をつなぎ地域を守ることの大切さを感じられました。



今後のイベント情報

LSFA 乳幼児応急手当普及会

SIDS(乳幼児突然死症候群) 研修会

日時: 平成26年11月7日(金) 18:00~19:40
平成26年11月8日(土) 14:00~15:40
場所: 7日 ハービス PLAZA
8日 神戸国際会館セミナーハウス
概要: 保育士を対象に、SIDSの最新の予防情報と、保育中にSIDSが発生した際の応急手当(心肺蘇生)の手順を普及する研修会を実施します。(要申込、参加費1,000円)
問合せ: LSFA 乳幼児応急手当普及会
TEL: 090-6979-2661
MAIL: lsfa_kids@yahoo.co.jp

特定非営利活動法人

健康まちづくり推進協会

第5回全国学生防災書道展

日時: 平成27年2月12日(木)~15日(日) 10:00~16:30
場所: 兵庫県立美術館 原田の森ギャラリー
概要: 全国の小中高校生を対象として、震災の経験と教訓を後世に生かし伝えるために、青少年の防災救命に関わる意識啓発を促す書道展を開催します。
応募: 平成26年11月10日(月)~25日(火) (締切日必着、出品料無料)
問合せ: 特定非営利活動法人 健康まちづくり推進協会 学生防災書道展係
TEL: 078-996-0693
MAIL: kenko-machidukuri@gaia.eonet.ne.jp



第4回公募助成活動発表会を開催しました

平成 26 年 8 月 31 日 (日) に、平成 25 年度公募助成の活動団体の方々による活動発表会を開催しました。
全 35 団体のうち、9 団体にステージ形式、26 団体にポスター形式で、活動の成果を披露していただきました。

ステージ発表では、それぞれの団体に活動内容を披露
いただくとともに、その活動にける思いや信念、これ
からの展望についても熱く語っていただき、時間が足り
なくなることもしばしばありました。
質疑応答では多くの質問が寄せられ、傍聴側からの熱
意も強く感じられました。



ステージ発表終了後の交流会で行われたポスター発表
では、掲示されたポスターの前で意見交換が活発に行
われていました。
興味を持った団体の方を探して会場内を歩きまわるな
ど、情報収集に余念が無く、活動団体が一堂に会する
機会を有意義に活用されている様子が伺えました。

平成27年度公募助成(活動・研究)のお知らせ

身近な「いのち」を支える活動・研究を応援します

助成対象

事故、災害や不測の事態に対する備えに関する活動・研究 または、
事故、災害や不測の事態が起こった後の心身のケア等に関する活動・研究

〔特別枠〕として東日本大震災、平成 23 年台風 12 号災害及び平成 26 年広島土砂災害に関する被災地・被災者支援に関する活動も対象

〔助成例〕・グリーンケアやスピリチュアルケアといった心のケア又はリハビリテーションといった身体的ケアに関する活動や研究

- ・事故、災害等における救援・支援活動を目的とした訓練、研修、講演会等の活動など地域社会における安全構築に関する活動
- ・命の大切さを啓発する講演会や研修会等の活動や支えあうための地域コミュニティやネットワーク作りなど「安全で安心できる社会づくり」を推進する活動
- ・事故、災害等における救援活動(システム)に関する研究
- ・公共交通機関における事故の防止、被害軽減に関する研究
- ・事故、災害等における社会的リスクに関する社会心理学的、人間工学的な研究

応募条件

活動助成：近畿2府4県に拠点があり、1年以上の継続的活動実績のある非営利の民間団体とします。

〔特別枠〕への応募の場合、活動実績は不問。(ともに法人格の有無は問いません)

研究助成：近畿2府4県の大学及び大学院、高等専門学校、公的研究機関、医療機関等に所属する研究者

助成期間

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで (1 年間)

募集期間

平成 26 年 10 月 1 日 (水)～平成 26 年 11 月 17 日 (月) 必着

助成金

活動助成：70 万円以下/件

研究助成：200 万円以下/件

(総額 5,000 万円程度、いずれも平成 27 年 3 月下旬に交付予定)

その他

詳しい募集要項はホームページにて公開中です。

編集後記

救急フェアで真剣に体験して下さっている様子を拝見し、フェアの意義や重要性を改めて感じている中
…今年度ラスト!「救急フェスタ in 京都」を 11 月 2 日 (日) に開催します!

普段の救急フェアの内容に加え、一般参加の方々か救命処置の流れを競いあう“第2回いのちのリレー大会”
を実施。今回はどのチームが優勝するのでしょうか? 皆様のご来場をお待ちしております! (編集者: 川股)

〒 530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番 24 号

TEL : 06-6375-3202 FAX : 06-6375-3229

E-mail : info@jrw-relief-f.or.jp

URL : <http://www.jrw-relief-f.or.jp/>